

第16回 岐阜県CSF有識者会議

日時：令和6年9月3日（火）
13時30分～

場所：岐阜県庁6階 特別会議室

（議 題）

1. 農場を守る対策
2. 野生いのしし対策
3. その他

第16回岐阜県CSF有識者会議 名簿

■委員

(50音順、敬称略)

青木 博史	日本獣医生命科学大学 獣医学部 教授	Web
浅井 鉄夫	岐阜大学大学院 連合獣医学研究科 教授	
石黒 利治	(公社)岐阜県獣医師会 相談役(前会長)	
伊藤 貢	(有)あかばね動物クリニック獣医師 (一社)日本養豚開業獣医師協会 代表理事	Web
江口 祐輔	麻布大学 教授 フィールドワークセンター長	欠席
小寺 祐二	宇都宮大学 農学部 雑草管理教育センター 准教授	欠席
只野 亮	岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程 応用動物科学コース 動物ゲノム多様性学分野 准教授	欠席
平田 滋樹	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ 上級研究員	
山本 健久	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域 疫学・昆虫媒介感染症グループ長	Web

■ワーキンググループアドバイザー

迫田 義博	北海道大学大学院 獣医学研究院微生物学教室 教授	Web
-------	--------------------------	-----

■オブザーバー

永田 知史	農林水産省 消費・安全局 動物衛生課	Web
密田 千尋	農林水産省 消費・安全局 動物衛生課	Web
吉野 毅	岐阜県養豚協会 会長	
大野 恵章	(一社)岐阜県猟友会 会長	欠席
所 千加	ぎふジビエ協会 会長	

■県関係

河合 孝憲	副知事
足立 葉子	農政部長
渡辺 幸司	環境生活部長
高井 尚治	農政部次長

議題1 農場を守る対策

(1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

(R6.8.16現在)

- 令和元年10月の初回接種以降、ワクチン接種と定期的な抗体検査を実施。
- 農場ごとに母豚の抗体レベル（免疫付与における抗体量の水準）や離乳時期を確認したうえで、接種時期の前倒しを含め、その農場に適した時期に接種を実施。
- 令和5年度上半期以降、母豚で8割以上、肥育豚で6割前後で推移。

<免疫付与率の推移>

検査時期		母豚	肥育豚	
R元年度	下半期	96% (223/233)	99% (387/390)	と畜場出荷時点
R2年度	上半期	95% (377/395)	69% (394/574)	
R2年度	下半期	93% (343/369)	49% (389/790)	83% (334/401)
R3年度	上半期	94% (583/620)	51% (410/810)	96% (333/347)
R3年度	下半期	84% (521/622)	54% (418/775)	93% (272/292)
R4年度	上半期	90% (595/663)	63% (496/788)	93% (290/312)
R4年度	下半期	78% (419/534)	57% (410/724)	92% (721/785)
R5年度	上半期	86% (519/602)	67% (476/709)	84% (740/878)
R5年度	下半期	83% (433/523)	55% (451/813)	80% (727/914)
R6年度	上半期	83% (549/660)	56% (330/588)	83% (562/675)

※「と畜場出荷時点」以外のデータの陽性
→ ELISA検査 陽性(S/P値0.1以上)

※「と畜場出荷時点」のデータの陽性
→ ELISA検査 陽性・疑陽性(S/P値0.05以上)
中和試験による中和抗体価1倍以上(R2年度は2倍以上)

※令和4年度下半期以降の「と畜場出荷時点」のデータは、と畜場で採材した個体のほか、出荷直前に農場で採材した個体を含む。

<R6上半期と畜場出荷時点検査結果の内訳>

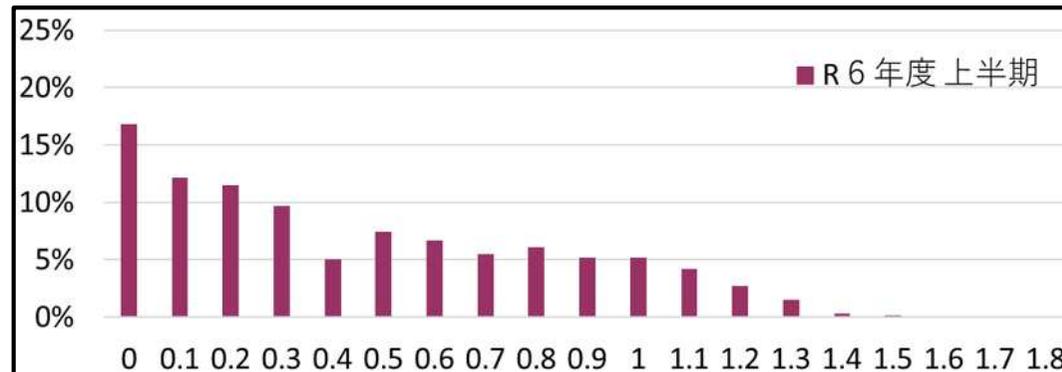
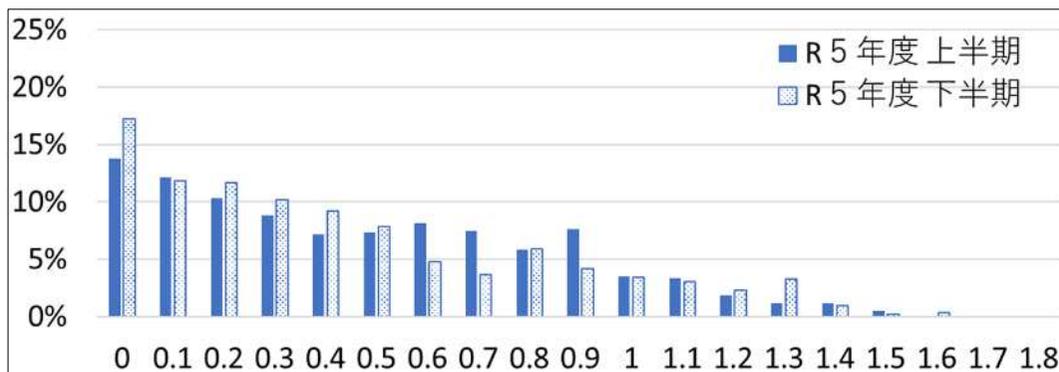
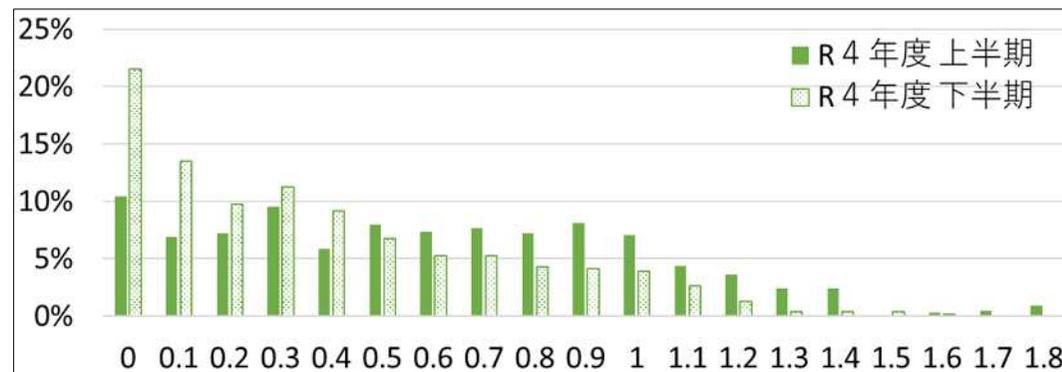
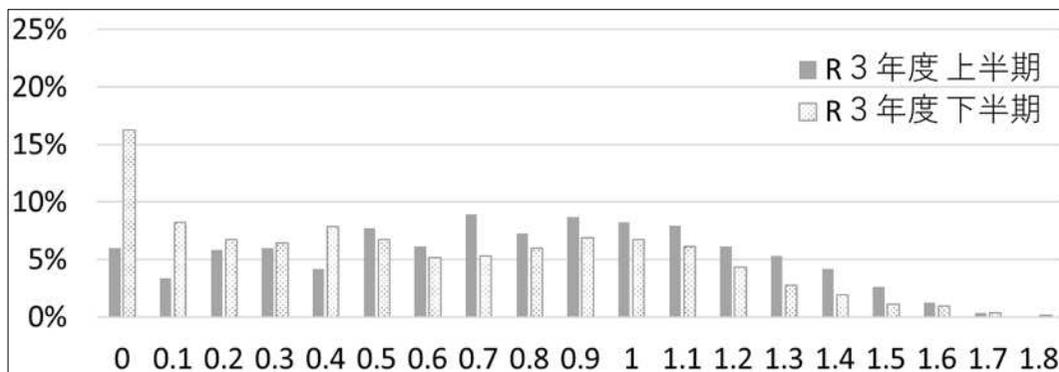
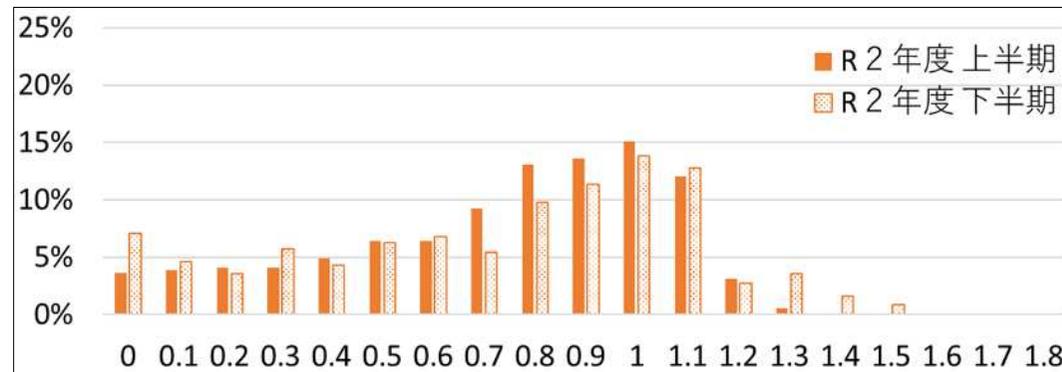
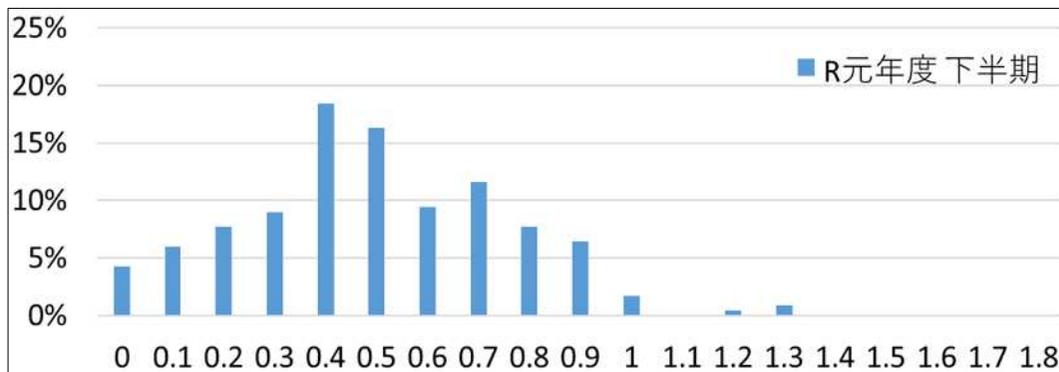
	ELISA 陽性	ELISA 疑陽性	中和 陽性	中和 陰性	計
検体数	386	65	111	113	675
%	57.2%	9.6%	16.5%	16.7%	—

(1) 飼養豚のワクチン接種による抗体付与状況

(R6.8.16現在)

- 令和6年度上半期の母豚の抗体価分布は、令和5年度下半期とほぼ同様。

＜母豚の抗体レベルの分布とその推移＞



※母豚の抗体レベルの分布は、ELISA検査によるS/P値で作成。

(2) 発生農場等の再開状況

- 豚熱発生農場等22農場のうち16農場が再開。飼養頭数は当時の91.5%に回復（R6.8.1現在）。
- ※飼養頭数は令和元年10月以降、最も多い頭数。

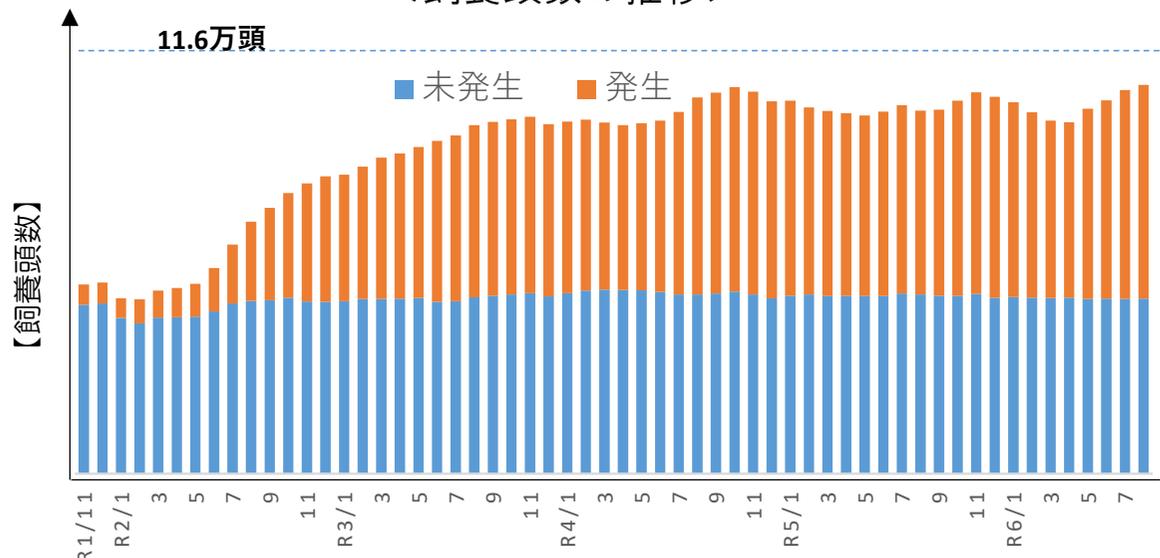
<県豚熱発生等農場の再開状況（R6.8.1現在）>

豚熱発生 農場等				再開率
	出荷再開	再開未定	廃業	
22農場	16農場	3農場	3農場	72.7%

<県飼養頭数の状況（R6.8.1現在）>

豚熱発生前	現在の飼養頭数	回復率
115,806頭	105,925頭	91.5%

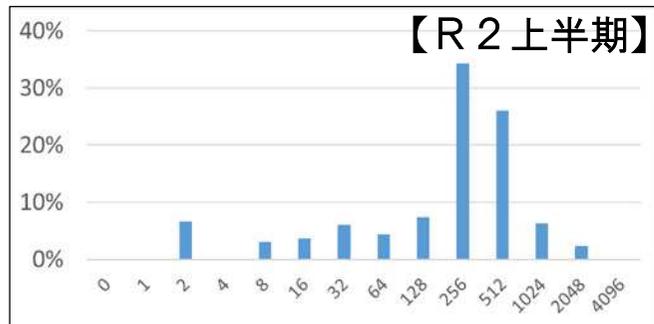
<飼養頭数の推移>



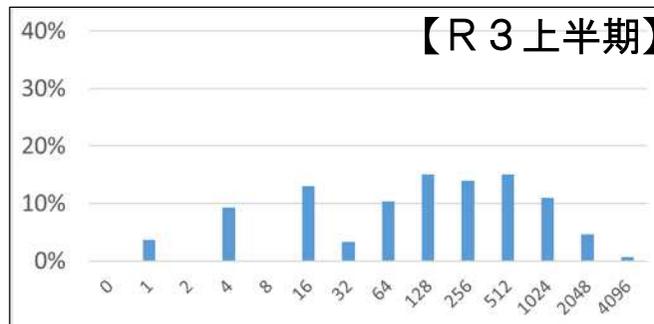
(3) 母豚の抗体価のバラツキを少なくする取組事例（農家A）

- 原種豚を導入し、一貫経営を営む農家Aにおいて、母豚の抗体価のバラツキを少なくする対策を実施。
- 対策を講じて以降、抗体価のバラツキは減少傾向。

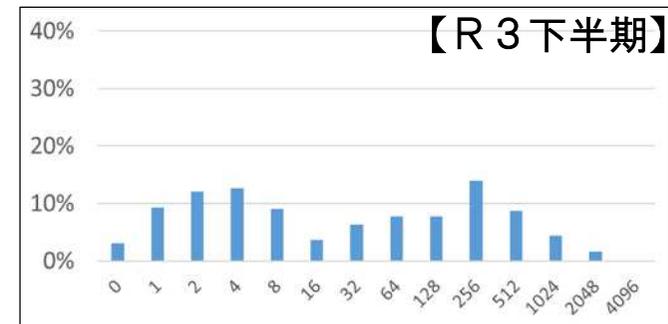
① 対策前の母豚の抗体価分布の状況



- 第1世代：95% 第2世代：5%
- まとまりがある状態



- 第1世代：50% 第2世代：50%
- 第2世代増加に伴い分布にバラツキ



- 第1世代：33% 第2世代：67%
- さらに低抗体価が増加し、2峰性の分布に

② 対策後の母豚の抗体価分布

対策	1) 原種豚の抗体価把握	⇒ 1年以上かけ把握。産子のワクチン接種時期の検討材料に
	2) 原種豚産子の初乳の分割授乳	⇒ 同腹産子の移行抗体価レベルを平準化
	3) 原種豚産子のワクチン接種時期の細分化	⇒ 高低2グループに時期を分け接種。抗体価レベルを平準化
※ 上記 1)から3)を、令和4年2月頃から順次開始		

現状	• 母豚の抗体価分布のバラツキは減少傾向																													
	<table border="1"> <caption>【R6 上半期】抗体価分布</caption> <thead> <tr> <th>抗体価</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td></tr> <tr><td>8</td><td>0</td></tr> <tr><td>16</td><td>3</td></tr> <tr><td>32</td><td>5</td></tr> <tr><td>64</td><td>5</td></tr> <tr><td>128</td><td>10</td></tr> <tr><td>256</td><td>27</td></tr> <tr><td>512</td><td>31</td></tr> <tr><td>1024</td><td>10</td></tr> <tr><td>2048</td><td>4</td></tr> <tr><td>4096</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	抗体価	割合 (%)	0	0	1	0	2	0	4	0	8	0	16	3	32	5	64	5	128	10	256	27	512	31	1024	10	2048	4	4096
抗体価	割合 (%)																													
0	0																													
1	0																													
2	0																													
4	0																													
8	0																													
16	3																													
32	5																													
64	5																													
128	10																													
256	27																													
512	31																													
1024	10																													
2048	4																													
4096	0																													

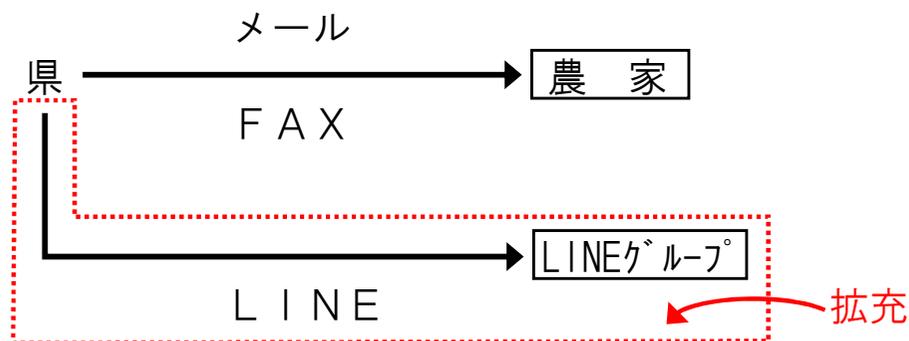
課題	• 農場の作業量増加。大きな負担
	• 農場従業員の變動等により継続的な取組みが難しいことも
	• 一時的である可能性もあるため、今後も経時的に確認が必要

※ 母豚の抗体価分布のグラフは、ELISA S/P値から中和抗体価を推定し作成

(4) 「農場を守る対策」の取組状況

① 養豚農家への情報発信

- ・ 現状においては、メールやFAXにより「家畜衛生情報」や「野生いのしし感染確認情報」を農家へ提供。
- ・ 上記に加え、家畜防疫対策課が公式LINEアカウントを取得し、既存のLINEグループへ他県情報、海外情報などの情報提供を試行。



② ワクチン接種関連研修の実施

- ・ 接種技術等の維持のため、講習会やフォローアップ研修を実施。

(令和6年度 実績・計画)

- ・ 新規登録希望者のための「登録飼養衛生管理者研修」を、各家畜保健衛生所で開催。(随時)
- ・ 「登録飼養者衛生管理者フォローアップ研修」をWEBで開催。(9月20日、2月)
- ・ 「豚熱ワクチン接種に関する講習会」をWEBで開催。(11月)

(4) 「農場を守る対策」の取組状況

③ 防疫訓練等の実施

- ・ 農場における豚熱やアフリカ豚熱の発生、野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染発生に備え、防疫措置などの演習を実施。
- ・ 農場に対し、石灰による一斉消毒や、野生動物の侵入防止柵などの点検について、注意喚起を実施。

(令和6年度 計画)

- ・ 石灰による一斉消毒や、野生動物の侵入防止柵などの点検について、注意喚起を実施。
(9月6日～27日、一斉消毒は野生いのししの感染確認状況により、追加実施)
- ・ 野生いのししにおけるアフリカ豚熱発生に備えた防疫演習を実施。(11月)

④ 人材育成

- ・ 家畜保健衛生所職員のスキルアップのため、大学や民間家畜診療施設などに職員を派遣するほか、産業動物獣医師や県職員獣医師の確保に努める。

(令和6年度 実績・計画)

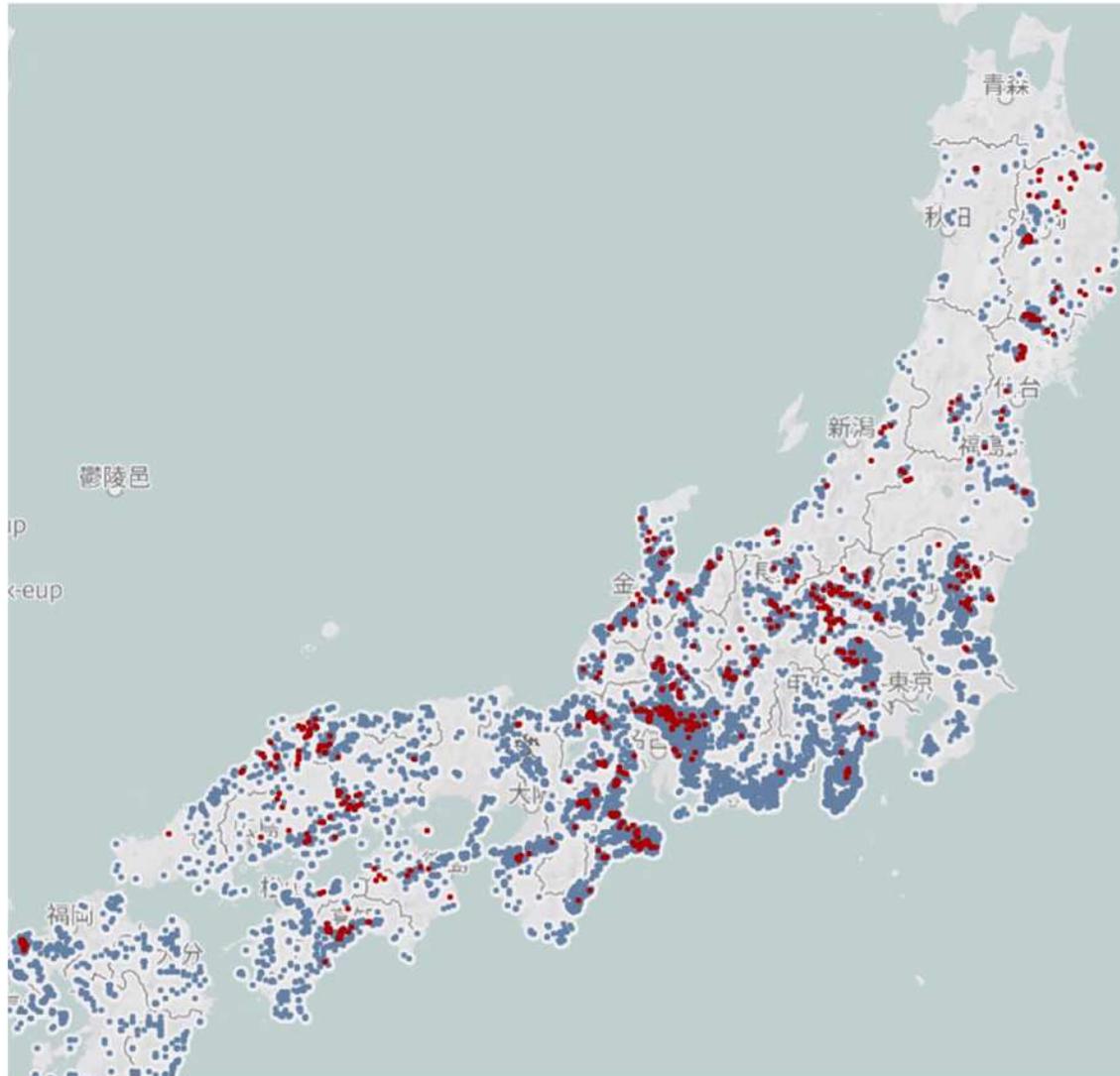
- | | |
|----------------|------------------|
| 北海道大学 | 1名(7月29日～10月25日) |
| (有)あかばね動物クリニック | 1名(8月5日～8月30日) |
| 宇都宮大学 | 1名(8月26日～9月20日) |
- ・ 国が主催する家畜衛生講習会等に職員8名が参加、3名が参加予定。

議題2 野生いのしし対策

(1) 全国の感染いのししの現状

- 野生いのししの豚熱感染は、前回会議(R6. 2. 1)以降、新たに岡山県(2. 29)、佐賀県(6. 6(九州初))、愛媛県(7. 1)、青森県(8. 6)で確認され、計38都府県に拡大。
※未確認：北海道、千葉県、福岡県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

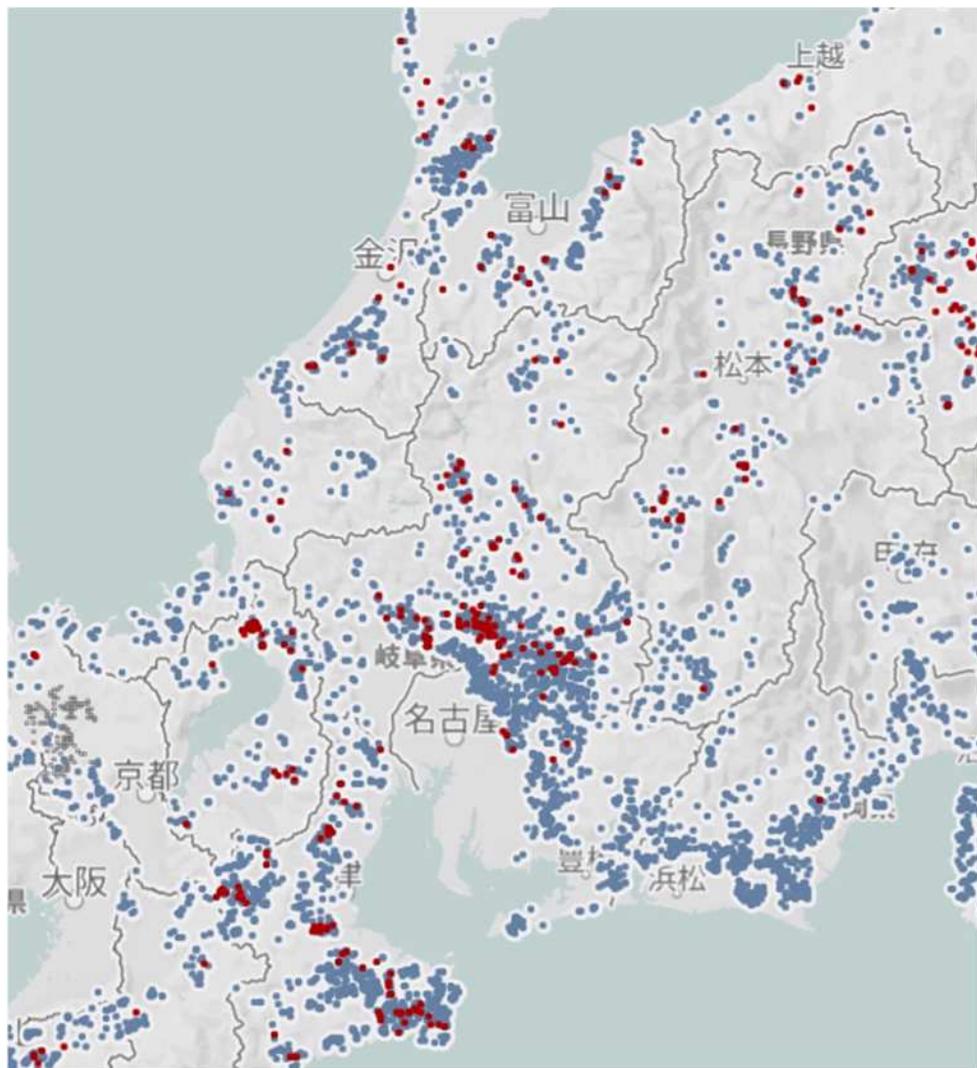
<全国の感染いのしし確認地点 (R6. 2. 16~R6. 8. 14) >



(2) 近隣県の感染いのししの状況

- 愛知県以外の県において感染が増加傾向。

<近隣県の感染いのしし確認地点(R6.2.16～R6.8.14)>



<近隣県の野生いのしし検査結果(R6.2.16～R6.8.14)>

県名	陽性(頭)	陰性(頭)	検査数(頭)	陽性率	陽性率(前年)
富山県	17	618	635	2.7%	1.1%
石川県	13	205	218	6.0%	2.8%
福井県	4	163	167	2.4%	2.2%
長野県	34	417	451	7.5%	0.2%
愛知県	5	520	525	1.0%	3.1%
三重県	74	1,524	1,598	4.6%	3.2%
滋賀県	30	198	228	13.2%	4.8%
岐阜県	106	1,192	1,298	8.2%	2.8%

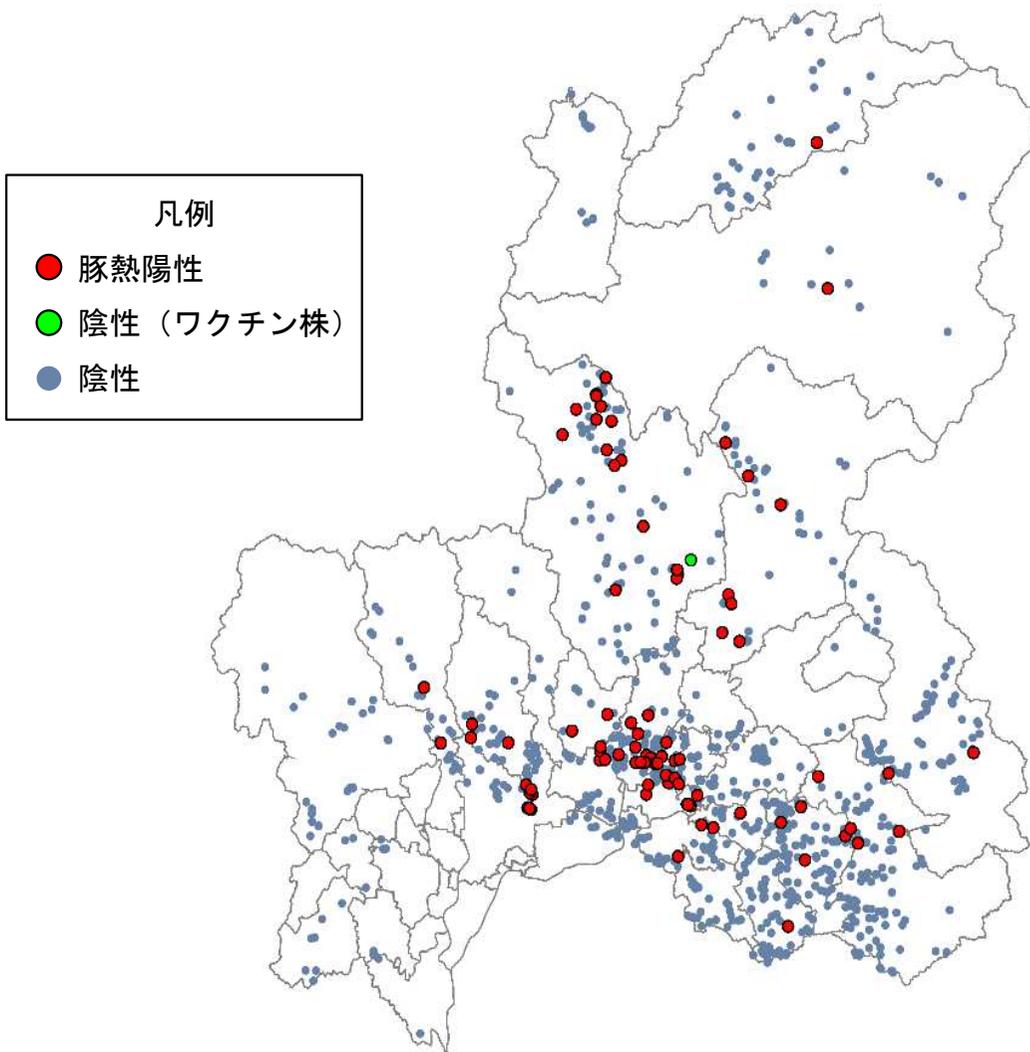
※「陽性率(前年)」の期間はR5.3.28～R5.9.27

(3) 県内のいのししの現状

① 感染状況

- 令和6年度は、8月29日時点で、87頭の感染を確認（前年度は8月末までに90頭の感染を確認）。
- 特に、美濃加茂市周辺、郡上市で多くの感染を確認。

<令和6年度 野生いのしし捕獲・発見地点（R6. 8. 29時点）>



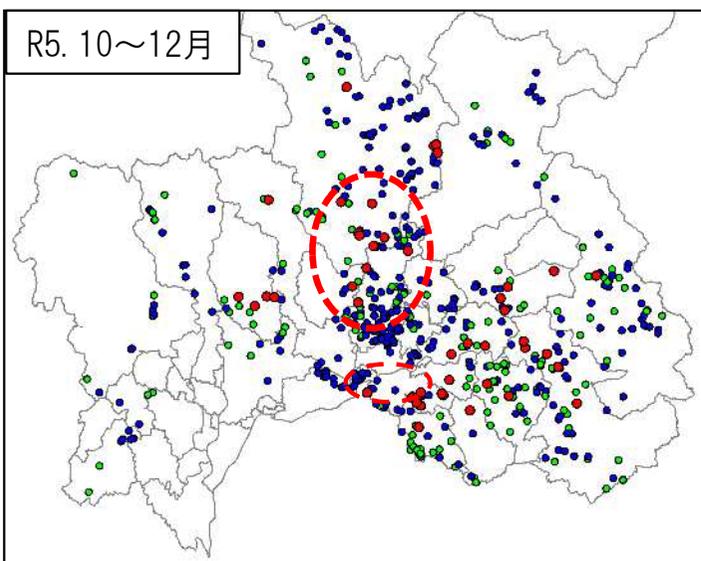
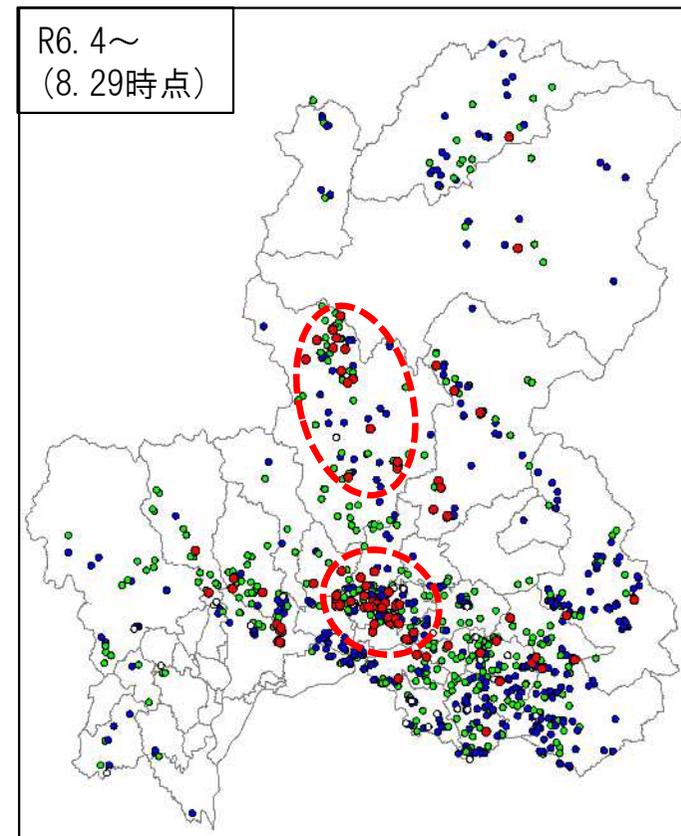
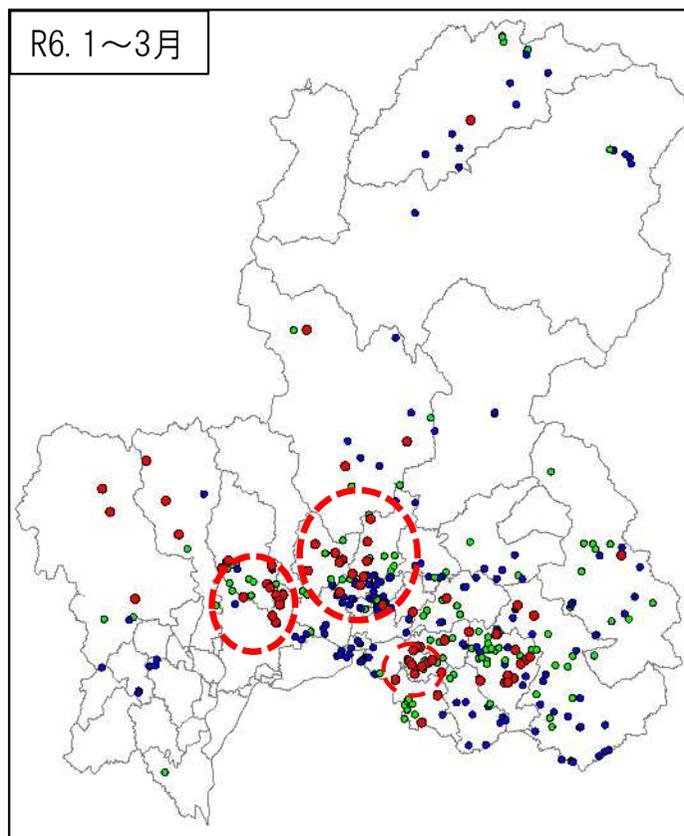
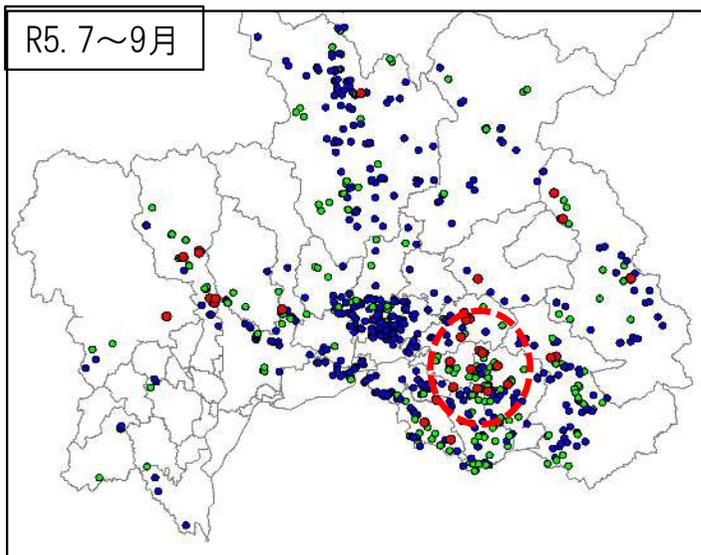
(C)岐阜県

市町村名	頭数
岐阜市	7
山県市	3
本巣市	2
関市	8
美濃市	3
郡上市	17
美濃加茂市	18
可児市	2
富加町	3
川辺町	2
御嵩町	2
瑞浪市	5
土岐市	1
中津川市	2
恵那市	3
高山市	1
飛騨市	1
下呂市	7
計	87

(3) 県内のいのししの現状

- 令和5年7～9月は土岐市・瑞浪市近辺で感染いのししが多く確認されたが、同年10月以降、中濃・可茂地域及び岐阜市・山県市近辺でも多く確認され、また下呂・飛騨地域でも感染いのししが認められた。

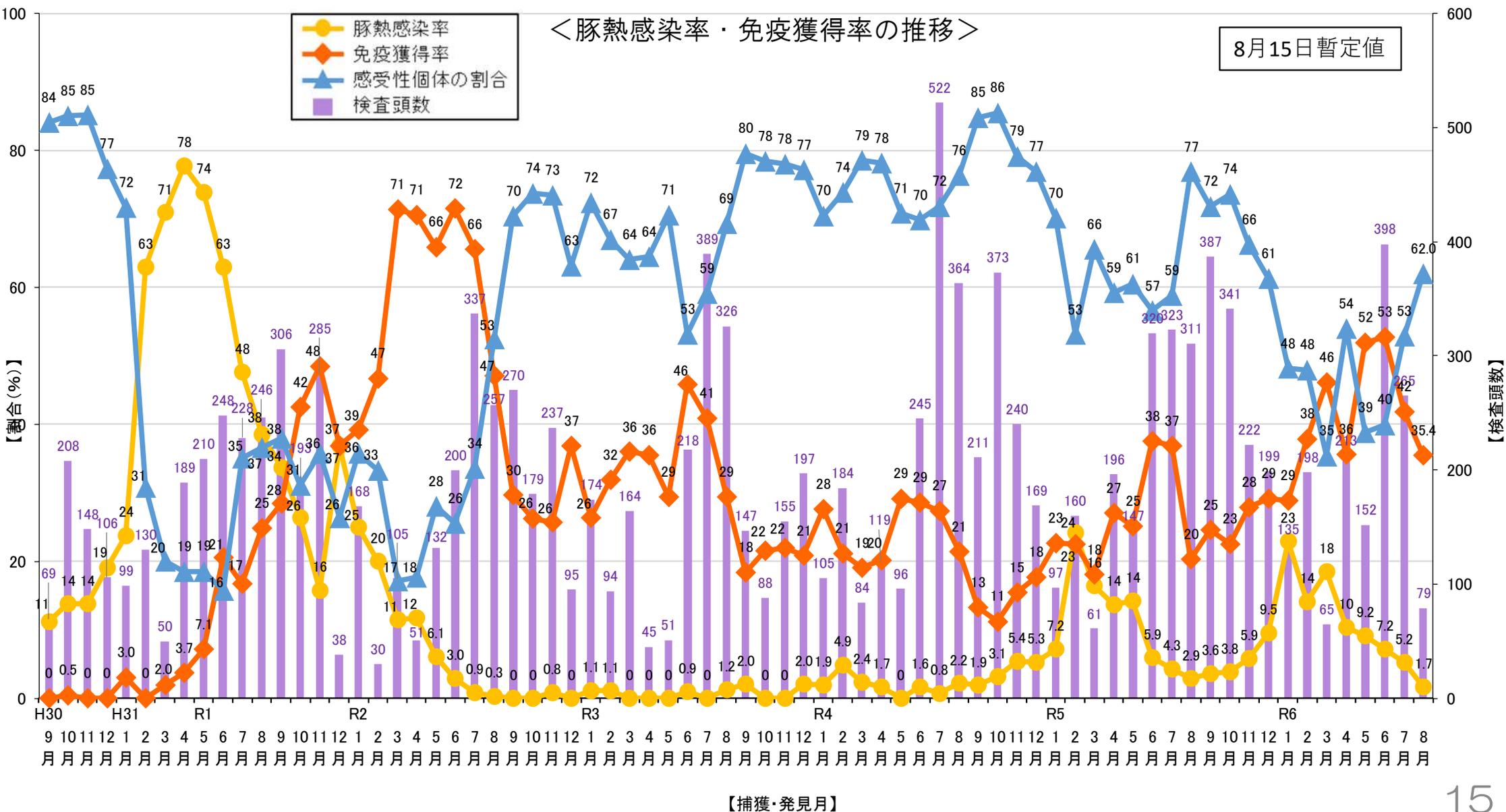
<四半期別感染いのしし確認地点>



(3) 県内のいのししの現状

② 免疫獲得率

- 令和2～4年度までは年々減少傾向にあったが、令和5年からの感染拡大に伴い、上昇傾向に転じ、令和6年5～6月には50%を上回った。



(4) 「野生いのしし対策」の取組状況

① 捕獲の強化

- 年間1万頭を目標に、調査捕獲や有害捕獲の支援を実施。

＜平成30年度以降の野生いのししの捕獲頭数＞

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (7月末まで)
調査捕獲 (その他捕獲を含む)	552	1,574	2,502	1,468	1,684	1,421	838
有害捕獲	8,310	3,586	2,368	2,767	3,883	4,681	2,117
狩猟 (R1は広域捕獲)	2,114	720	1,948	1,970	2,271	2,010	-
合計	10,979	5,880	6,818	6,205	7,838	8,112	2,955

(調査捕獲 実施状況・計画)

- 次の期間に調査捕獲を実施。
北部 (R6/4/13-5/2・6/3-6/27・7/25-8/13・9/21-10/15)
南部 (R6/4/13-5/2・6/3-6/27・9/21-10/15・R7/2/7-2/26)
- 感染いのししの確認が続いた地域で集中捕獲を、これまでに3回実施。
1回目 (5/3-5/22) 関市・美濃加茂市・可児市・富加町・川辺町・八百津町・御嵩町
2回目 (6/28-7/17) 岐阜市・関市・美濃市・瑞浪市・恵那市・美濃加茂市・山県市・富加町・川辺町・八百津町
3回目 (8/28-9/16) 郡上市

② 経口ワクチン散布

- 年間2期4回の散布を実施。

＜令和6年度散布実績・予定(定期散布)＞

	前期		後期		
	1回目	2回目	2回目	3回目	4回目
北部	5/15～5/19	7/3～7/7	—	8/28～9/1	10/23～10/27
南部			8/28～9/1	10/23～10/27	1/22～1/26
	実施済 (2,002地点)	クマの影響により中止	中止分の振替実施 (1,102地点を予定)	実施予定	実施予定

(5) 経口ワクチンの摂食率向上に向けた取り組み

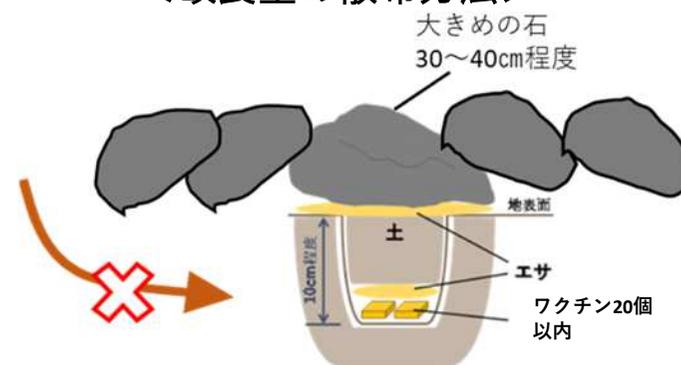
前年度に引き続き、散布地点での摂食状況を調査したところ、摂食地点率は36%となり、前年同期比で8ポイント増加した。(散布地点数：2,002地点)

- 散布地点の見直し
 - ・ 年間を通じて痕跡がなかった地点を変更。
 - ・ この変更地点(229地点)のうち53地点(23%)で摂食が見られた。
- 散布方法の変更
 - ・ 前年度の実証試験において、摂食地点率の増加が確認された改良型の散布方法を他地域に拡大。
 - ・ この改良型を用いた819地点のうち290地点(35%)で摂食が見られた。
(819地点のうち、前年度従来型の地点は692地点、うち摂食地点は218地点(32%))
 - ・ 摂食地点率は、従来型を用いた地点(36%(428地点/1,183地点))とほぼ同じ。

<摂食地点率の前年同期比較>

R 6 散布時期			摂食地点率	
			R 6	R 5
前期	1回目	(5/15~19)	36%	28%

<改良型の散布方法>



(6) 令和6年度の狩猟期に向けた対策

1 1月に解禁される狩猟期に向け、豚熱ウイルスをさらに拡散させないように、対策を継続実施。

① 県をまたいだ狩猟登録の自粛

- ・ 岐阜県から他県への狩猟登録、他県から岐阜県への狩猟登録の自粛を依頼。

② 防疫研修等を受講したもののみの狩猟登録

- ・ 狩猟時の消毒の励行、留意事項を徹底するため、狩猟登録にあたり「防疫研修」等の修了を確認。
- ・ なお、狩猟時の防疫措置については、更新時講習も含め、年間を通じて研修を実施。

「防疫研修会」等の実施状況

- ・ 豚熱や防疫の基礎知識、捕獲時の消毒方法等、いのしし肉の取扱いなどについて研修。

○狩猟防疫研修会

- ・ 県内2カ所（中濃、飛騨）にて実施予定。

○狩猟事故防止研修会

- ・ 豚熱に感染した野生いのししが確認されている地域の猟友会支部における狩猟事故防止研修会で徹底。

※この他、狩猟免許更新講習（6～9月、県庁及び各総合庁舎で30回実施）などで防疫措置について啓発。

③ 防疫措置の自己点検、監視・指導

- ・ 出猟したときに日時、地域を記録する「出猟カレンダー」を利用して自己チェックを実施。
- ・ 県猟友会の協力のもと「狩猟事故防止指導員」「安全狩猟指導員」が巡回し、防疫措置等を監視・指導。

④ その他

- ・ 「狩猟時の防疫措置の徹底」「捕獲個体の適正処理」「県境付近における「巻狩り」の自粛」「サーベイランス検体の提供」などを県猟友会に依頼。
- ・ 「いのししまップぎふ」や県公式HPなどを利用し、野生いのししの豚熱感染確認状況を随時情報提供。

いのししまップぎふ 豚熱陽性高率エリアの確認

過去に豚熱陽性個体が捕獲された地点の周囲を、豚熱陽性高率エリアとして表示します。

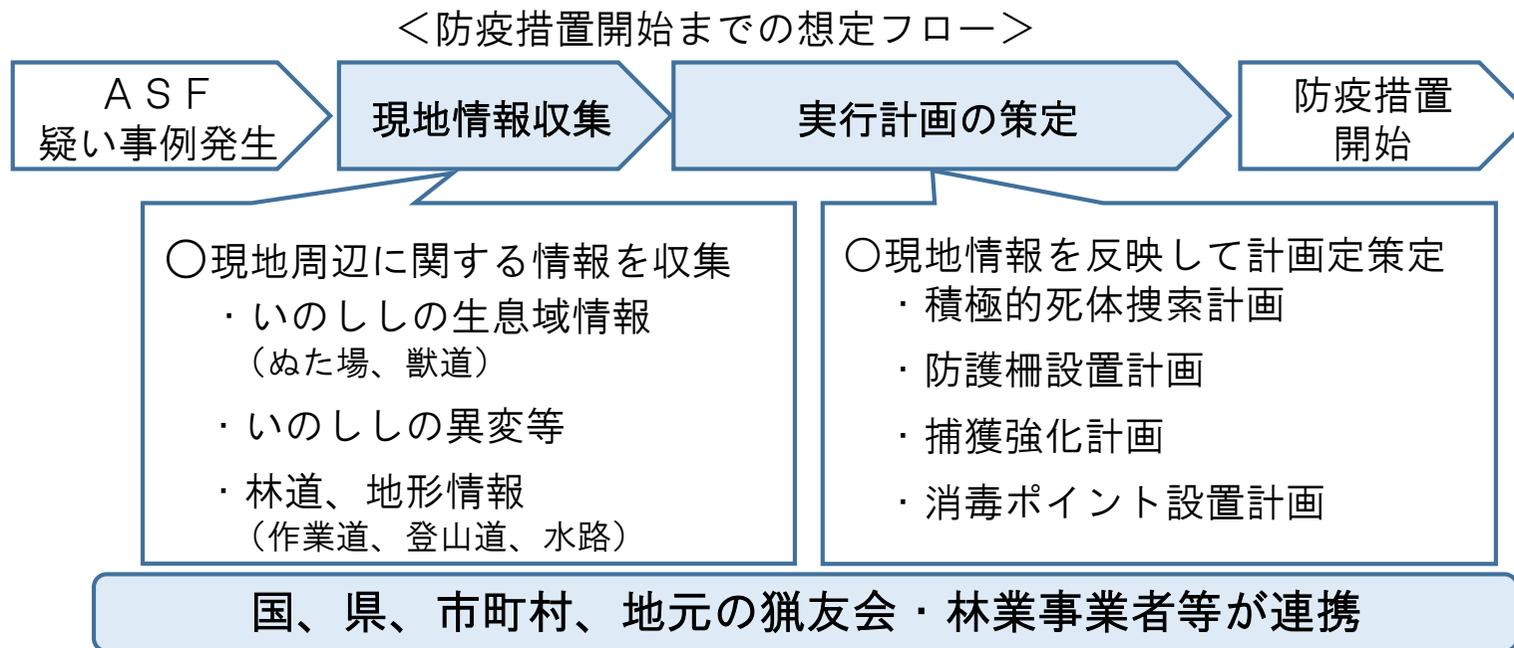
<https://boar-map.gifugis.jp/login> ユーザーID Yviewer パスワード inoshishi



(7) アフリカ豚熱に備えた体制づくり

① 国の防疫指針、基本方針に基づき、本県の防疫措置について検討

- ・ 疑い事例発生から防疫措置開始までのフロー（案）を想定
- ・ 関係機関、関係団体等との調整の実施
- ・ 防疫措置（積極的死体搜索、防護柵等の設置、捕獲・サーベイランスの強化）の具体的方法を検討



＜関係団体との調整＞

想定される防疫作業	関係団体
積極的死体搜索	岐阜県猟友会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県森林施業協会、岐阜県測量設計業協会
防護柵等の設置	岐阜県建設業協会
サーベイランス・捕獲強化	岐阜県猟友会
死亡個体運搬・消毒ポイント運営	岐阜県ペストコントロール協会

(7) アフリカ豚熱に備えた体制づくり

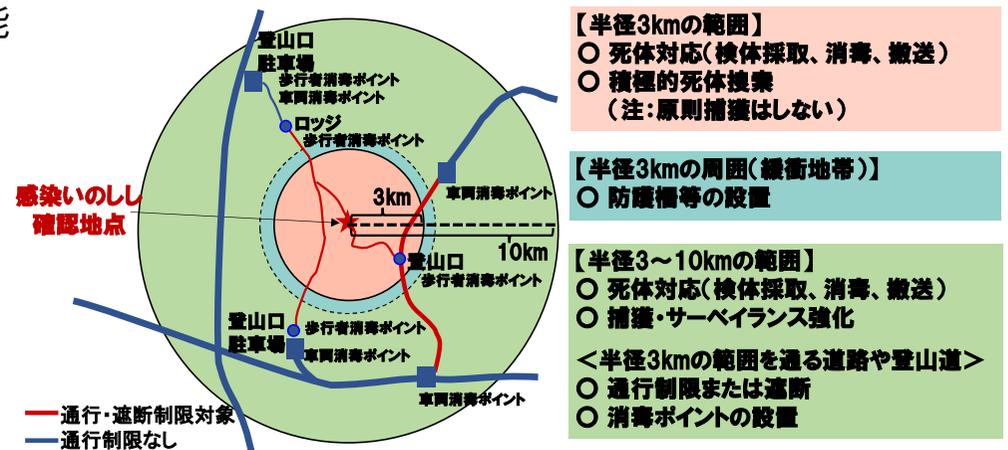
「積極的死体捜索」実施ポイントとイメージ

- ・ 半径 3 km 圏内を網羅的かつ長期間捜索するのは不可能
- ・ 以下をポイントとした「積極的死体捜索」を想定

- ① 感染したいのししの確認地点周辺を最優先
- ② 猟師が設置するわな周辺を見廻り（ぬた場、獣道）
- ③ 林道沿いや水路沿いを車両を使用してパトロール

※短期的には①中心、中長期的には②③を主体として実施

＜国基本方針における防疫措置イメージ＞



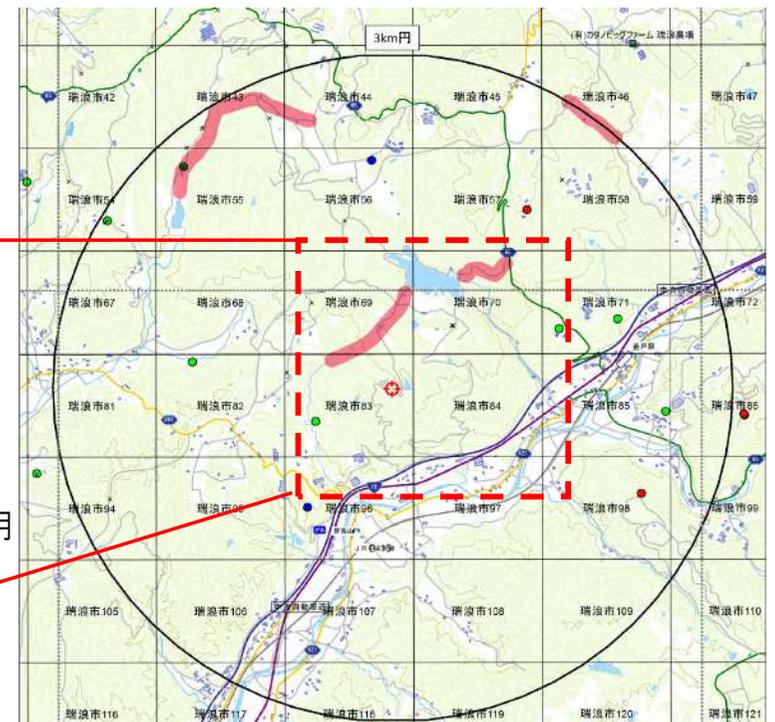
「防護柵等の設置」の設置イメージ

- ・ 基本方針に基づき、既存人工物等を考慮して設置
- ・ 周辺状況を踏まえ、他の森林、山との接点、いのしし群と群の接触可能性地点などを中心に設置



市街地、道路、湖などを利用
それ以外に柵を設置

＜防護柵等の設置個所のイメージ＞



(7) アフリカ豚熱に備えた体制づくり

② 防疫演習の実施

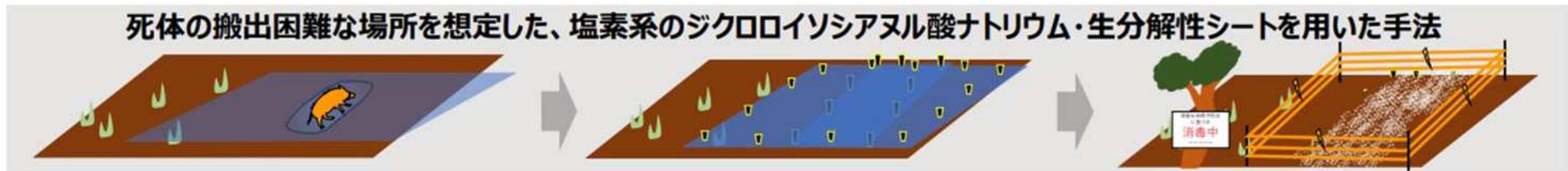
- 昨年度は、現地での死体搜索を実施
- 今年度は、現地での死体の消毒による処理の実演と関係者への防疫措置内容の説明を実施

「令和6年度 野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫演習」

- 目的 各対策支部担当者及び協力機関・団体担当者への防疫措置の全体像と具体的作業イメージの共有化を図る。
- 実施日 令和6年11月
- 場所 県立森林文化アカデミー 演習林（美濃市）
- 参加者 県、市町村、農林水産省動物衛生課、農研機構畜産研究部門、東海農政局、岐阜県猟友会、
（予定）岐阜県ペストコントロール協会など
- 内容
（午前）講義：「野生いのししにおけるアフリカ豚熱感染確認時の防疫作業」
（午後）演習：「山中での野生いのししの死体の消毒による処理等」

＜山中での野生いのししの死体の消毒による処理手順のイメージ＞

死体の搬出困難な場所を想定した、塩素系のジクロロイソシアヌル酸ナトリウム・生分解性シートを用いた手法



議題3 その他 報告事項等

(1) 全国知事会 CSF対策プロジェクトチームの要請活動

- ・ 8月1日、2日の全国知事会議（開催地：福井県）にて提言案を了承。
- ・ CSF対策PTのリーダーである古田知事が、8月5日に農林水産省へ要請。

農林水産省への要請活動

- 日時 令和6年8月5日（月）11:15から
- 手交先 鈴木憲和 農林水産副大臣
- 場所 農林水産省 農林水産副大臣室



「豚熱・アフリカ豚熱対策と感染拡大防止に向けた提言」

- ・ 「ワクチンの最適な接種時期の提言」「野生いのししの効果的な対策の検討」「農場の飼養衛生管理向上への支援」などを要請。
- ・ 特に、国内の野生いのししがアフリカ豚熱に感染した場合に備え、電気柵などの資材の備蓄強化、死亡いのしし捜索犬の導入を要請。

(2) ジビエ利用再開後の現状と課題

① ジビエ事業者再開申出状況

- 「【岐阜県版】野生いのししジビエ利用マニュアル」を令和4年8月1日に発出。
- 現在、10事業者が再開（R6.7末現在）。37頭を検査（R4年度:14頭、R5年度:23頭、R6年度:0頭）。全て陰性。

No.	処理施設の名称	所在地	R4年度検査数	R5年度検査数	R6年度検査数	合計
1	ジビエトミノ	関市	3件	2件	0件	5件
2	ジビエ工房めいほう	郡上市	7件	6件	0件	13件
3	苗木ジビエ	中津川市	3件	0件	0件	3件
4	飛騨狩人工房	高山市	0件	2件	0件	2件
5	猟師29	恵那市	1件	1件	0件	2件
6	一般社団法人 郡上地美恵	飛騨市	0件	2件	0件	2件
7	株式会社恵那ジビエ	恵那市	—（※1）	0件	0件	0件
8	GOD HILL WILD	飛騨市	—（※1）	6件	0件	6件
9	五宝の滝	八百津町	—（※1）	2件	0件	2件
10	自然派工房ほたる	恵那市	0件	2件	0件	0件

※1 No. 7, 8, 9はR5年度から再開。

② 課題

- 37施設（※2）中、10施設しか申請・承認が進んでいない（約27%）のは、豚熱感染が継続的に確認されていることや、豚熱の防疫対策に係る資材費等の負担が大きいことが主な要因。令和4年度に承認したうち1事業者は承認の継続（期間:1年）を辞退。

※2 ジビエ処理施設のうち、イノシシを取り扱うこととしている施設。（令和3年度岐阜県健康福祉部生活衛生課・岐阜市保健所調べ）

- 県下で陽性個体が確認され続けていることから、「豚熱陽性高率エリア（捕獲個体の搬入を自粛するエリア）」が減少しない状況。